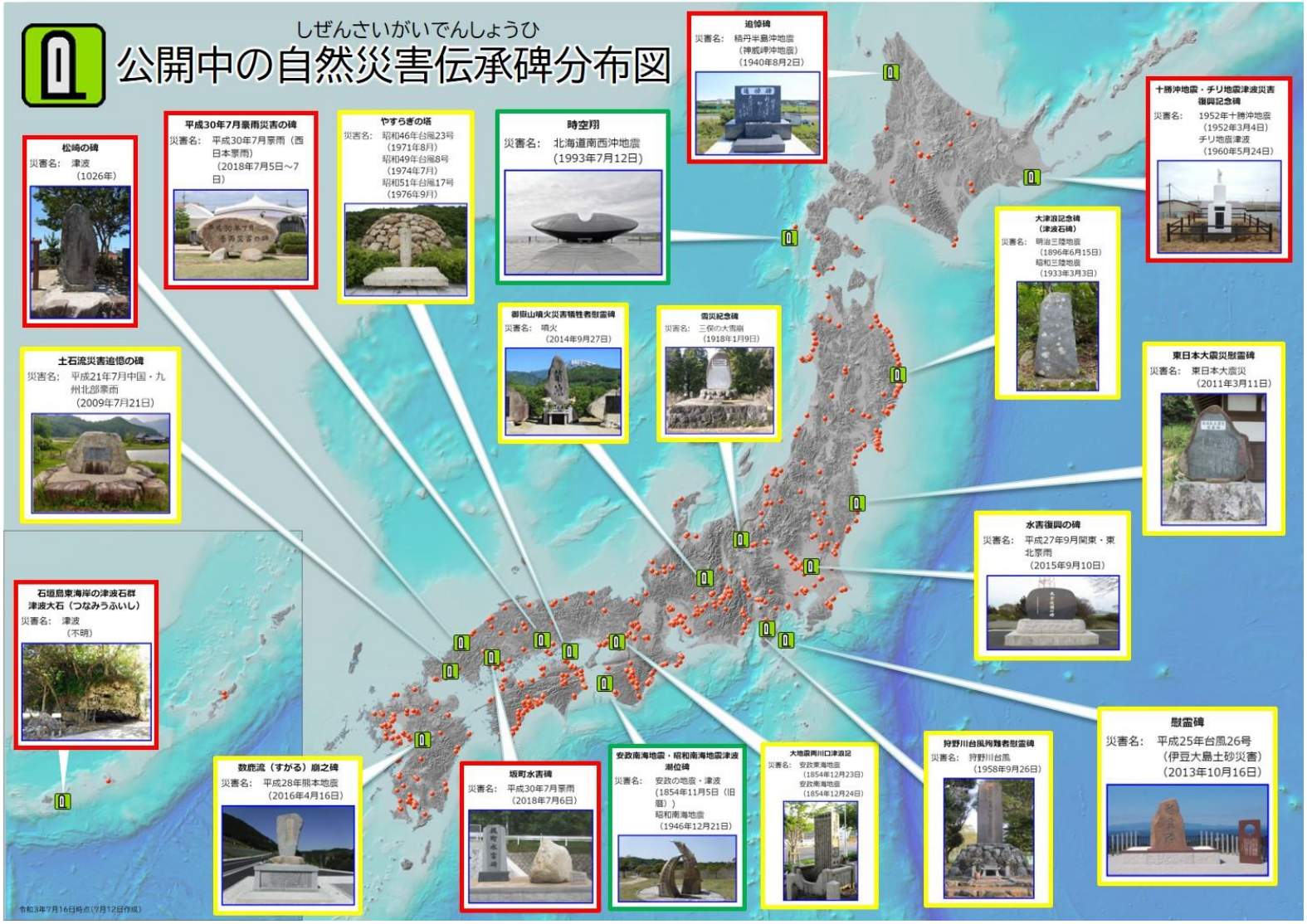
自然災害伝承碑　代表事例

資料３

国土地理院

令和3年7月16日時点

- 最北端/東端/西端/南端/、最も古い/新しい災害の自然災害伝承碑・・詳細はp.2～p.3をご参照
  ※７月１６日時点の情報
- 特徴的な形状をしている自然災害伝承碑の例・・詳細はp.4をご参照
- 顕著な災害に関する自然災害伝承碑の例・・詳細はp.5～p.9をご参照



最北端/東端/西端/南端の自然災害伝承碑

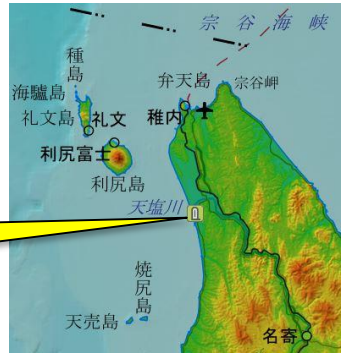
国土地理院

令和3年7月16日時点

➢ 最北端の碑

碑名：追悼碑
災害名：積丹半島沖地震（神威岬沖地震）（1940年8月2日）
災害種別：津波
建立年：1972年
所在地：北海道天塩郡天塩町字川口8413
伝承内容：
昭和15年(1940)8月2日、神威岬北西沖を震源地とする積丹半島沖地震（神威岬沖地震）により、天塩川口は2メートルの津波に襲われ10名の命が奪われた。

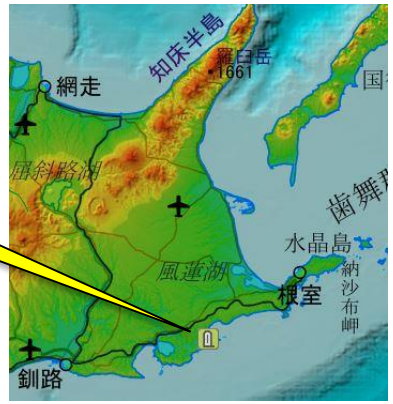
「追悼碑」北海道天塩町



➢ 最東端の碑

碑名：十勝沖地震・チリ地震津波災害　復興記念碑
災害名：1952年十勝沖地震（1952年3月4日）
　　チリ地震津波（1960年5月24日）
災害種別：地震・津波
建立年：1963年
所在地：北海道厚岸郡浜中町暮帰別東1丁目233番地
伝承内容：
昭和27年(1952)3月4日の十勝沖地震では浜中町に流氷をともなった3m余りの津波が襲い、3名が犠牲となり306戸が被災した。また昭和35年(1960)5月23日のチリ地震津波でも翌24日に12回にわたって津波が襲い、11名が犠牲となり534戸が被災した。

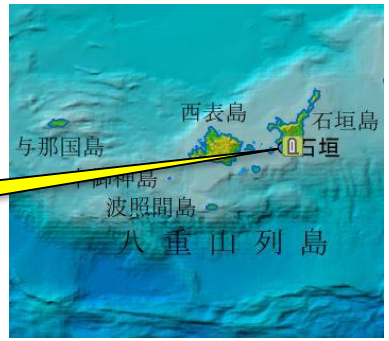
「十勝沖地震・チリ地震津波災害　復興記念碑」
北海道浜中町



➢ 最西端/最南端の碑

碑名：石垣島東海岸の津波石群　津波大石（つなみうふいし）
災害名：津波（不明）
災害種別：地震・津波
建立年：不明
所在地：沖縄県石垣市字大浜
伝承内容：
年代測定調査で約2000年前の津波で今の場所に移動したということがわかってきた石です。明和大津波以前にも大きな津波がこの地を襲ったという教訓的な要素もある貴重な津波石です。

「石垣島東海岸の津波石群津波大石
（つなみうふいし）」沖縄県石垣市



最も古い/新しい災害の自然災害伝承碑

国土地理院

令和3年7月16日時点

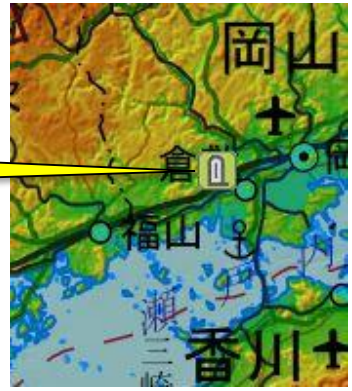
➢ 最も古い災害を伝承する碑

碑名：松崎の碑
災害名：津波（1026年）
災害種別：津波
建立年：1814年
所在地：島根県益田市高津五丁目（金刀比羅神社・恵美須神社境内）
伝承内容：
万寿3年（1026）、地震による大津波で高津沖にあった鴨島が水没するなど大きな被害を被った。

「松崎の碑」島根県益田市

➢ 最も新しい災害を伝承する碑①

碑名：平成30年7月豪雨災害の碑
災害名：平成30年7月豪雨（西日本豪雨）（2018年7月5日～7日）
災害種別：洪水
建立年：2019年
所在地：岡山県倉敷市真備町箭田
伝承内容：
平成30年（2018）7月5日から7日に降り続いた豪雨により、小田川・末政川・高馬川・真谷川の8箇所で堤防が決壊、小田川・大武谷川の7箇所で一部損壊・損傷し、真備地区の約三割、1,200ヘクタールが浸水する大洪水となった。5,700棟超の住家が全壊・大規模半壊等し、60名を超える命が奪われた。



「平成30年7月豪雨災害の碑」岡山県倉敷市

➢ 最も新しい災害を伝承する碑②

碑名：坂町水害碑
災害名：平成30年7月豪雨（2018年7月6日）
災害種別：洪水・土砂災害
建立年：2021年
所在地：広島県安芸郡坂町小屋浦四丁目（小屋浦公園）
伝承内容：
平成30年（2018）7月6日の午後から7日の明け方にかけて記録的な豪雨となり、坂町全域において土石流や河川の氾濫により17名の命が失われ、行方不明者1名、全半壊家屋1,280件数（り災証明交付件数）を超える甚大な被害となった。明治40年、昭和20年、昭和40年の坂町の災害履歴とその犠牲者の氏名も刻字されている。碑の隣には、豪雨により土石流となって流出した石があり、「災害から自分の身を守るためには、早めの避難をすることが最も重要」との説明がある。

「坂町水害碑」広島県坂町

特徴的な形状をしている自然災害伝承碑の例

国土地理院

令和3年7月16日時点

➢ 繰り返される災害を伝える碑

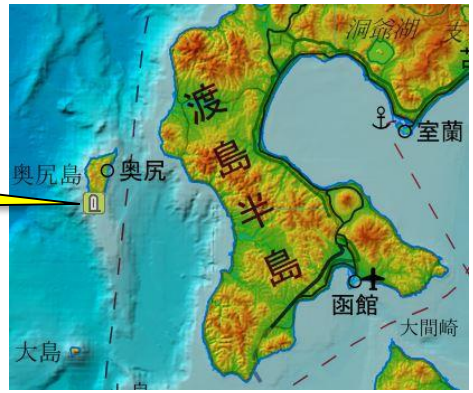
碑名：安政南海地震・昭和南海地震津波潮位碑
災害名：安政の地震・津波
（1854年11月5日（旧暦）
昭和南海地震（1946年12月21日）
災害種別：津波
建立年：1999年
所在地：和歌山県田辺市新庄町
伝承内容：
安政南海地震(1854)と昭和南海地震(1946)による津波災害を忘れないため、津波潮位を刻んでいる。カニのはさみをモチーフしたデザインで、ハサミの先端が当時の津波潮位。

「安政南海地震・昭和南海地震津波潮位碑」
和歌山県田辺市

➢ 北海道南西沖地震を伝える碑

碑名：時空翔（じくうしょう）
災害名：北海道南西沖地震(1993年7月12日)
災害種別：地震・津波
建立年：1998年
所在地：北海道奥尻郡奥尻町字青苗49
伝承内容：
1993年7月12日午後10時17分に発生した北海道南西沖地震はマグニチュード7.8と日本海では観測史上最大級で、激しい地震の数分後に大津波が押し寄せた。奥尻町では地震・津波・火災により198名の尊い命が犠牲となった。碑の土台は押し寄せた津波と同じ高さまで盛土されている。

「時空翔（じくうしょう）」北海道奥尻町



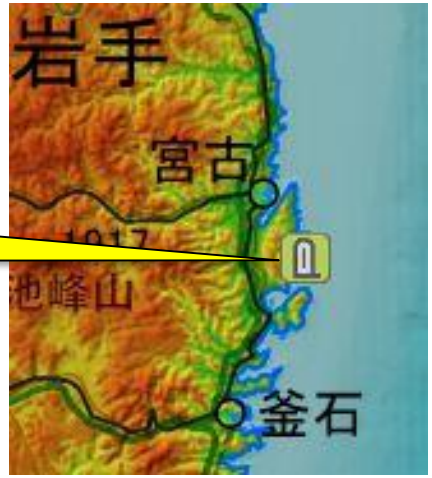
顕著な災害に関する自然災害伝承碑の例

国土地理院

令和3年7月16日時点

➢ 明治三陸地震･昭和三陸地震を伝える碑

碑名：大津浪記念碑（津波石碑）
災害名：明治三陸地震（1896年6月15日）
　　昭和三陸地震（1933年3月3日）
災害種別：地震・津波
建立年：不明(1934？)
所在地：岩手県宮古市重茂姉吉
伝承内容：
「高き住居は児孫の和楽、想へ惨禍の大津浪、此処より下に家を建てるな」重茂姉吉地区の生存者は明治三陸地震(1896)2人、昭和三陸地震(1933)4人、2度とも集落は全滅した。碑の教訓を守り、東日本大震災では家屋に被害はなかった。



「大津浪記念碑（津波石碑）」岩手県宮古市

➢ 東日本大震災を伝える碑

碑名：東日本大震災慰霊碑
災害名：東日本大震災（2011年3月11日）
災害種別：地震・津波
建立年：2017年
所在地：福島県双葉郡楢葉町大字波倉字
　　坊ノ下地内　龍蔵寺内
伝承内容：
平成23年（2011）3月11日、東日本大震災によって楢葉町は震度6強の揺れと大津波に襲われた。波倉地区では、高さ十数メートルの津波により避難誘導中の消防団員を含む8名が犠牲になり、家屋の大部分（25軒）が流失した。犠牲者の御霊を慰め、津波の恐ろしさを後世に伝える。「大地震だ！津波が来るぞ！高台に逃げろ！」

「東日本大震災慰霊碑」福島県楢葉町

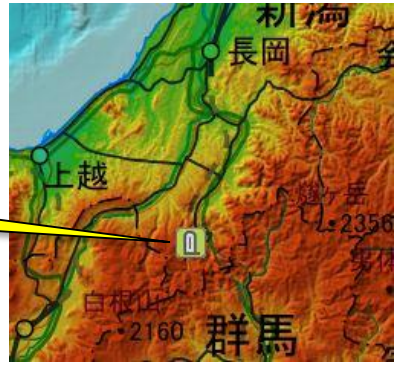
顕著な災害に関する自然災害伝承碑の例

国土地理院

令和3年7月16日時点

➢ 雪崩災害を伝える碑

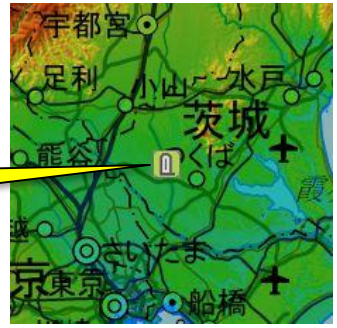
碑名：雪災紀念碑
災害名：三俣の大雪崩（1918年1月9日）
災害種別：その他
建立年：1918年
所在地：新潟県南魚沼郡湯沢町大字三俣835
伝承内容：
大正7年(1918)1月9日午後11時30分頃、三俣集落の北東「前の平」尾根から厚さ6～7mの大雪崩が発生した。この雪崩により、山の麓の小学校校舎1棟及び集落の半数近くを占める28戸の家屋が倒壊し、158名の命が奪われた。



「雪災紀念碑」新潟県湯沢町

➢ 平成27年9月関東・東北豪雨を伝える碑

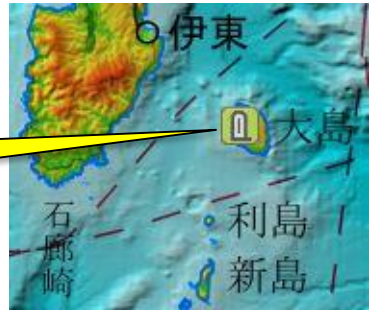
碑名：水害復興の碑
災害名：平成27年9月関東・東北豪雨（2015年9月10日）
災害種別：洪水
建立年：2018年
所在地：茨城県常総市本石下
伝承内容：
平成27年（2015）9月10日、数日間降り続いた大雨により、若宮戸地先では、約1600mにわたり地形的に河畔砂丘であった無堤防区間の二箇所から溢水が始まり、若宮戸地区を含む玉地区全域が浸水した。



「水害復興の碑」茨城県常総市

➢ 伊豆大島土砂災害を伝える碑

碑名：慰霊碑
災害名：平成25年台風26号（伊豆大島土砂災害）（2013年10月16日）
災害種別：土砂災害
建立年：2020年
所在地：東京都大島町元町字神達
伝承内容：
平成25年（2013）10月16日、台風26号の影響により大島町は24時間降水雨量が824mmと記録的な豪雨に見舞われ、元町地区上流域の大金沢を中心とした渓流で、流木を伴った土石流が発生した。多くの家屋が被害を受け、死者行方不明者39人の尊い命が奪われた。



「慰霊碑」東京都大島町

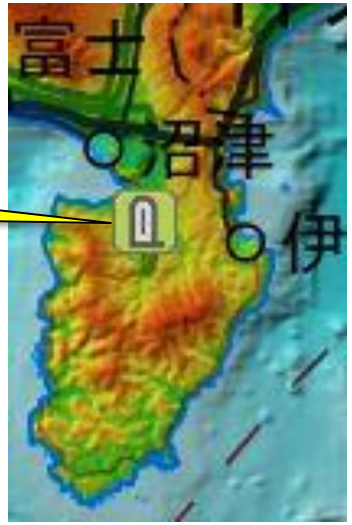
顕著な災害に関する自然災害伝承碑の例

国土地理院

令和3年7月16日時点

➢ 狩野川台風を伝える碑

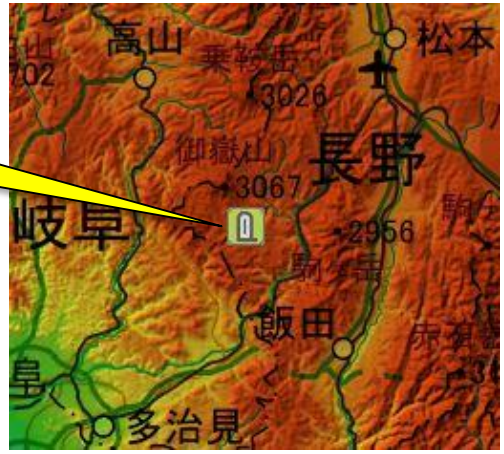
碑名：狩野川台風殉難者慰霊碑
災害名：狩野川台風（1958年9月26日）
災害種別：洪水・土砂災害
建立年：1978年
所在地：静岡県伊豆市熊坂（狩野川記念公園）
伝承内容：
昭和33年（1958）9月26日に台風22号（狩野川台風）により天城は大雨となり、山の至るところで崩壊が起こり、土砂や倒木は修善寺橋で狩野川本流をせき止めた。橋の上流側は湖となったが、午後9時50分頃に橋が陥没し、濁流が下流の熊坂地区を襲い、291名が犠牲になった。



「狩野川台風殉難者慰霊碑」静岡県伊豆市

➢ 御嶽山噴火災害を伝える碑

碑名：御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑
災害名：噴火（2014年9月27日）
災害種別：火山災害
建立年：2017年
所在地：長野県木曽郡王滝村
伝承内容：
平成26年（2014）9月27日、御嶽山が噴火。人知を超えた自然の容赦ない猛威により登山者らが巻き込まれ、５８名の尊い命が奪われ、５名の足取り途絶え生還叶わぬ、火山史上希にみる噴火災害となった。



「御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑」長野県王滝村

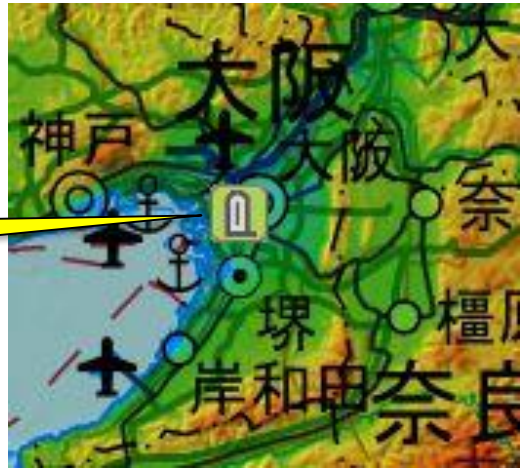
顕著な災害に関する自然災害伝承碑の例

国土地理院

令和3年7月16日時点

➢ 安政東海地震・安政南海地震を伝える碑

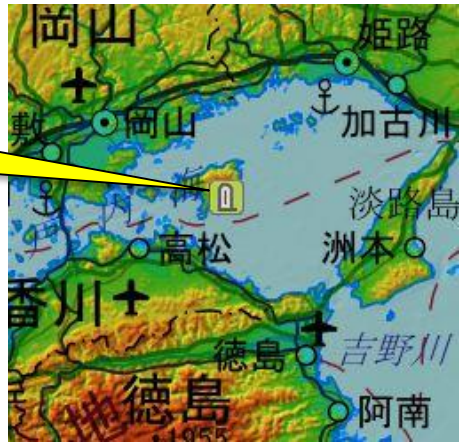
碑名：大地震両川口津浪記
災害名：安政東海地震（1854年12月23日）
　　安政南海地震（1854年12月24日）
災害種別：地震・津波
建立年：1855年
所在地：大阪府大阪市浪速区幸町三丁目
伝承内容：
1854年12月24日の安政南海地震後に発生した津波によって、安治川・木津川等に停泊する船に避難した人々が大きな被害を受けた。1707年に発生した宝永地震の時に起きた同様の災害の教訓が生かせなかったことを、後世への戒めとして残すため建立されている。



「大地震両川口津浪記」大阪府大阪市

➢ 四国地方の台風災害を伝える碑

碑名：やすらぎの塔
災害名：昭和46年台風23号（1971年8月）
　　昭和49年台風8号（1974年7月）
　　昭和51年台風17号（1976年9月）
災害種別：洪水・土砂災害
建立年：1980年
所在地：香川県小豆郡小豆島町馬木
伝承内容：
昭和46年(1971)、昭和49年(1974)、昭和51年(1976)と10年間に3度も大災害を経験した。特に昭和49年台風8号では旧内海町内各所で大規模な土石流、河川氾濫、家屋の流失等が発生し、死者29名を出すなど100年に1度といわれる大災害となった。近くにある「1400ミリの像」は昭和51年台風17号の累積雨量と同じ高さに造られ、ノーモア災害の願いが込められている。



「やすらぎの塔」香川県小豆島町

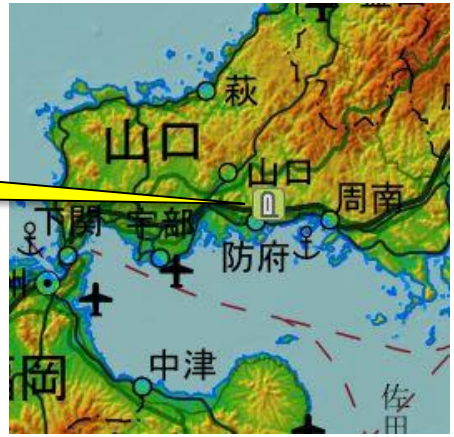
顕著な災害に関する自然災害伝承碑の例

国土地理院

令和3年7月16日時点

➢ 平成21年7月中国・九州北部豪雨を伝える碑

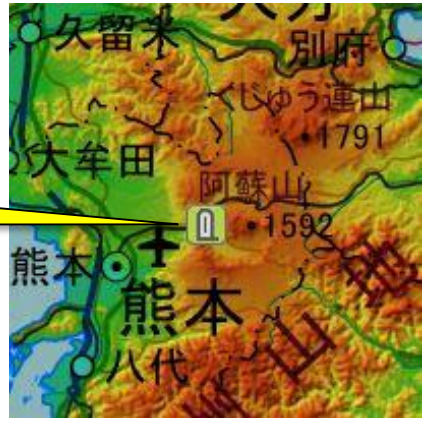
碑名：土石流災害追憶の碑
災害名：平成21年7月中国・九州北部豪雨
（2009年7月21日）
災害種別：土砂災害
建立年：2014年
所在地：山口県防府市大字真尾
伝承内容：
平成21年（2009）7月21日、梅雨前線の活動が非常に活発となり、未明から降り続いた雨は夜明けとともに雨脚を増し、防府市では275mmの日降水量を観測する記録的な豪雨となった。この豪雨により土砂災害が発生し、上田南川では7名が犠牲となった。災害の記憶を風化させず、大雨が降るたびに土石流の恐怖を思い起こし後世に語り継ぐためにこの碑が建立された。



「土石流災害追憶の碑」山口県防府市

➢ 平成28年熊本地震を伝える碑

碑名：数鹿流（すがる）崩之碑
災害名：平成28年熊本地震（2016年4月16日）
災害種別：土砂災害・地震
建立年：2020年
所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字立野303-6
伝承内容：
平成28年（2016）4月16日、熊本・阿蘇地方を襲った最大震度7の大地震により、黒川右岸山頂付近より大規模山腹崩落が発生。国道57号、豊肥本線、国道325号阿蘇大橋が被災し、熊本と阿蘇を結ぶ交通が絶たれ、大学生１名の尊い命が奪われた。



「数鹿流（すがる）崩之碑」熊本県南阿蘇村